

# 新聞新報

2007年(平成19年)4月2日 月曜日

## 中越地震 避難指示を解除

### 2年5か月ぶり ライフライン未復旧

新潟県長岡市は1日、中越地震の発生以来、旧山古志村(長岡市)の5集落141世帯416人(発生時)に発令していた避難指示を約2年5か月ぶりに解除した。これで、最大約8万人に発令された避難指示・勸告はすべて解除された。

解除されたのは梶金木籠、大久保、池谷、榎木の各

ため、1日に帰宅できた住民はいなかった。木籠集落では約6000平方メートルの山林を切り開き、新しい宅地を造成中で、完成は7月の予定だ。自宅を失った松井治一さん(66)は1日、現地に駆け付けて「新しい地にムラを作る印にと、道路沿いに「がんばります山古志」などと書いたのぼり旗を立てた。

長岡市山古志支所はこの日、開かれた式典には仮設住宅の住民ら約200人が集まった。能登半島地震の被災者に配慮し、もちつきや万歳三唱は中止したが、森民夫市長は「山古志の住民が頑張ることで、能登の被災者の力になる」と激励した。



避難指示の解除を受けて、地区の道路にのぼりを立てる住民ら(1日午前、新潟県長岡市山古志で)＝小山悟史撮影

地震で倒壊したブロック塀などを片づけるボランティア(3月30日、石川県輪島市門前町日野尾で)



能登地震

## ブロック塀倒壊 各所で

### 鉄筋なしが老朽化 「宮城沖」 教訓生かす

最大震度6強を観測した能登半島地震では、強い揺れでブロック塀の倒壊が相次ぎ、石川県志賀町では倒れたブロック塀で男性が足を骨折した。倒壊した塀は鉄筋が老朽化したり、元々全く入っていなかったとみられるものもあった。ブロン

この地区では多くの民家でブロック塀を使用しているが、震度6弱に見舞われた直後、3〜4軒に1軒程度の割合で次々に崩れた。けがをした男性(74)は、勝手口から自宅に入ろうとして大きな横揺れを感じ、立ちすくんだ。その瞬間、高

「ブロックにまともに対策の遅れを認める。土岐憲三・立命館大教授(地震工学)は「上下に重ねただけのブロック塀は、横からの力に弱い。鉄筋が備わり、きちんと機能しているかを改めて点検すべきだ」と指摘している。

で作った「間垣」と呼ばれる塀で強風に備えてきた。しかし、手入れに手間がかかるため、笹波地区でもかなり前からブロック塀への切り替えが進んだという。宮城県沖地震では、死者28人のうち18人(県集計)が、ブロックや石の塀、記念碑などの倒壊によって死亡した。見た目では強度を判断できないため全国的に対策が進められ、静岡県は東海地震に備え、ブロック塀撤去や生け垣への転換に市町を通じて補助する事業を実施。所有者に改修を指導する条例も設けた。

これに対し、石川県は注意喚起をしてきた」とするものの、「地震への危機意識の問題もあり、(ブロック塀の安全対策への)関心は高くなかった。課題を残した(建築住宅課)と、